

- ◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎公共牧場の有効活用と自給飼料の安定確保を進めよう。

<要約>

◇ 乳用牛 ～乳質・乳成分データのチェック～

出荷乳の乳質・乳成分データをチェックし、良質な生乳生産を心がける。特に、体細胞数が増加している場合は、牛の状態を確認し、乳房炎に感染していれば早期治療に努める。

また、細菌数の増加を防ぐため、搾乳機器等の日頃の洗浄・殺菌作業を再点検するとともに、バルククーラーの定期点検を行う。

◇ 肉用牛 ～放牧中の飼育管理～

ダニが媒介し、小型ピロプラズマ原虫が原因となるタイレリア病（ピロプラズマ病）の発生を防止するため、放牧期間中は定期的に殺ダニ剤を使用するとともに、異常がみられる場合は速やかに退牧させ、治療する。

◇ 豚 ～肉豚の飼育管理～

肉質の低下を防ぐために、豚舎内の温度管理や適切な飼料給与に注意する。また、異常肉の発生を防ぐため、飼育中及び出荷時のストレスを軽減させる。

◇ 鶏 ～あすなろ卵鶏の飼育管理～

あすなろ卵鶏の飼育は、鶏舎構造、飼育密度に注意し、発育段階に応じた採卵鶏用配合飼料を給与する。

◇ 草地・飼料作物 ～草地及び飼料畑の管理～

- 5月中旬以降の気温が高く推移し、牧草の生育は順調に進んでいることから、刈り遅れのないよう収穫を進める。
- アワヨトウの早期発見に努め、多発した場合、刈取可能な草地は直ちに収穫する。



報道機関用提出資料	
担当課 担当者	畜産課 経営支援グループ 上原子 GM 鹿内技師
電話番号	直通 017-734-9496 内線 4817
報道監	農林水産部 西村次長 内線 4967